

II 包括的な学校改善

内容 安定性・持続可能性を重視した学校運営組織の改善と効率的な業務推進



1 取組に係る本校児童の実態について

- (知) 基礎的・基本的な学習内容については概ね身につけているが、活用する力に課題あり。特に読解力と算数の問題解決能力の育成が長年の課題。
- (徳) 素直で落ち着いた学校生活が送れる。今後、伸ばしたい力としては、自己有用感の向上、共感的な人間関係の構築、自己指導能力の育成。教育的支援が必要な児童も各学級に一定数おり、「安全・安心・安定」した学校生活を送ることができる支援が必要。
- (体) 運動が好きで、スポーツ活動に積極的に参加している児童が多い。一方で、運動が今ひとつ楽しめない子や日常的に運動に親しんでいない子がおり、運動の楽しさを感じさせたい。合わせて体力向上の取組の必要性あり。

2 目的（取組の意義）について

『安全・安心・安定』の学校づくりと『持続可能な七小文化』の確立

- (1) 分掌業務の最適化・円滑化・効率化の推進
- (2) 成果のある取組の持続システムの構築
- (3) 学力向上委員会（GKI）の新設
- (4) 教育支援部の新設及び七小のUD化推進

3 内容について

- (1) 分掌業務の最適化・円滑化・効率化の推進に関わって
 - ①分掌業務の洗い出し→業務一覧表の作成
 - ②ムリ・ムダのそぎ落とし→分掌代表との対話
 - ③力をかけるべきところの焦点化→分掌代表や担当者への声かけ
- (2) 成果のある取組の持続システムの構築に関わって
 - ④七小スタイルハンドブックへの一元化
- (3) 学力向上委員会（GKI）の新設に関わって
 - ⑤学年サポーター・学習部担当者・指導グループ主幹による成果と課題の共通理解。学年団や学級担任へのフィードバック。
- (4) 教育支援部の新設及び七小のUD化推進に関わって
 - ⑥『安全・安心・安定』の学校生活へ。七小スタイルハンドブックへの位置づけ

4 成果・課題・今後の方向性等

- 業務一覧表により、各分掌の業務の見える化が図られ、ムリ・ムダを即時に確認することができた。
- 業務一覧表が、分掌代表との対話ツールとなり、業務の焦点化と力をかけるべきところの共通理解を促進することができた。
- 七小スタイルハンドブックは、年度当初の時点で、「算数編」、「道徳編」が完成済み。学年のスタートから一定の質が担保された授業を、子どもたちに提供することができている。UD化推進に関わっても、年度当初の確認部分をハンドブックへ位置づけ。
- 学力向上委員会で共通理解を図りながら、「読解力」については、計画的に進められている。算数の問題解決力については、授業チェックリストの結果を受け、GKI通信により、方向性を共有。
- 新型コロナウイルス感染防止に関する、コストやリソースの増加。制限のある学習活動が及ぼす子ども達への影響の把握・軽減。
- ☆各分掌の重点となる取組が円滑に進められるようにする。引き続き、七小スタイルハンドブックへの一元化を進める。